

かえる通信 16

八浜中 2月28日(木)



○「教員の働き方について考える集い in くらしき」
～ 教育の質の向上のために ～ 2月25日(月) 倉敷市民会館

- ・モデル校報告会 八浜中学校 勝央中学校 興陽高校 岡山南支援学校
- ・事例発表(先進校) 鴨方東小学校
- ・講演「学校を応援しよう!～ 学校教育の質の向上を目指して～」
講師 先生の幸せ研究所代表 澤田真由美 氏

＜本校の取組の良かったところ、評価された点はココだ!!＞

- ①市全体で教職員働き方改革の機運、市内中学校で足並みを揃えた改革。
- ②スピード感のある決断力、まずはやってみる、改良する力。
- ③色々な取組をやっていく中で、成功体験を積み上げていったこと。
- ④管理職の指導だけでなく、各分掌で発案、OJT、人材育成につながった。

私たちの最終目標は

啐啄同時(そったくどうじ)を見逃さない、
精神的・物理的なゆとりを持つこと
～ 生徒と接する時間の確保 ～

禅の言葉に「啐啄同時」というのがあります、5月は野鳥にとっては子育ての時期です、卵の中のヒナ鳥が殻を破ってまさに生まれ出ようとする時、卵の殻を内側から雛がコツコツとつつくことを「啐」といい、ちょうどその時、親鳥が外から殻をコツコツとつつくのを「啄」といいます。雛鳥が内側からつつく「啐」と親鳥が外側からつつく「啄」とによって殻が破れて中から雛鳥が出てくるのです。両方が一致して雛が生まれる「機を得て両者相応じる得難い好機」のことを「啐啄同時」というのです。親鳥の啄が一瞬でもあやまると、中のヒナ鳥の命があぶない、早くてもいけない、遅くてもいけない、まことに大事なそれだけに危険な一瞬であり啐啄は同時でなくてはなりません。

まさに、雛鳥にとって自立の瞬間です。しかし人間は子離れしない親、親離れしない子がいかに多いことでしょうか、「啐啄同時」の機会を逸してるといべきでしょうか。親の指導と子供の自発とが一致した時、はじめて効果をあげるのではないのでしょうか。ほんのちょっと待っていれば子供がひとりでに覚えたり行動したりするのに、今教えこもうとしてムダ骨を折ったり、教えずなくてはならない大事な時期をはずして手遅れになったりしていることが多いでしょう。

子供は知らないと思っても、親の身勝手はちゃんと見抜いていることもあります、またさみしい子供の心は、親の愛情をもとめています。教えをうける側と教えをあたえる側とが一致した時、真の教育がおこなわれる、子供の教育は、その心身の成長の段階に応じて適宜適切におこなわれなくてはなりません、とかくズレてしまいがちです。

親と子も、そして世の中の人間関係においても、人と人との関係が疎外されている現代社会において、この「啐啄同時」は、とても意味深い言葉です。

資料の掲載はできません。ご了承ください。

山陽新聞 2019年2月26日（朝刊）

「教員の働き方考える」

倉敷で関係者ら集い

モデル4校成果披露（本校もこの場で発表しました。）